

【第1号議案】

2025年度会務総括報告

2025年度事業ならびに会務運営は、2024年度第5回理事会において承認（2025年度定時総会にて報告）された事業計画に基づき執行した。

第81回総会学術大会は、パシフィコ横浜での現地開催と5月15日までのオンデマンド配信を組み合わせたハイブリッド開催を成功裏に実施した。参加登録者数は5,051名であった。The 4th International Conference on Radiological Physics and Technology (The 4th ICRPT) では、JSRTとJSMPを合わせて、122演題の一般発表が行われ、そのうち海外からの演題は50演題（40%）であった。国際研究集会派遣として、2025 ISMRM & ISMRT Annual Meeting & Exhibition, Radiological Society of North America (RSNA2025) に合計8名を派遣した。国際学術連携では、タイ医学物理学会（タイ王国）、大韓放射線科学会（大韓民国）、中華医学会影像技術学会（中華人民共和国）とは代表理事または国際戦略委員が現地へ赴き対面での交流を実施した。

国内の関連団体との学術連携として、第14回日本放射線看護学会学術集会 共同企画(2025/9/20：福島市)司会、演者等5名を派遣した。また、日本放射線看護協会(RNSJ)と共同研究を計画した。日本診療放射線技師会とは、合同市民公開講座(名古屋)の開催し、年間2回の懇談会を開催した。日本医学物理学会と年間2回の懇談会を開催した。放射線診療4団体連絡協議会は年間2回の会合を持った。JIRAとは年間1回の幹部会議に加えて年間4回にわたり実務者会議を開催した。

2025年度末の正会員数は15,381名であり、2024年度末の正会員数15,684名と比べて減少（303名）となった。学生会員は1,378名となり、前年度と比べて減少（780名）した。

2025年度は、財務的な収支バランスの回復に向けて、主に会議体制に関する合理化を推進した。会員諸氏の温かいご理解と担当役員・委員の献身的な努力により、学会一丸となって滞りなく執行できたことに深甚の謝意を表す。

以下に、2025年度事業の全般にわたり、その概要を報告する。

1. 学術集会事業；公1

1) 総会学術大会の開催

第81回総会学術大会は、パシフィコ横浜にて岩永秀幸大会長のもと2025年4月10日（木）～13日（日）の4日間、対面開催を行った。また、対面開催に引き続き、2025年5月15日（木）まで、約1か月間にわたりオンデマンド開催を行った。一般研究発表演題は371題、参加登録者数は正会員4,046名、学生1,005名で総計5,051名であった。

第82回総会学術大会は2026年4月16日（木）～19日（日）の4日間、林 秀隆大会長のもとパシフィコ横浜会議センター他で開催すべく準備を進めた。

2) 秋季学術大会の開催

第53回秋季学術大会は、札幌コンベンションセンターにて蝶野大樹大会長のもと2025年10月17日（金）～19日（日）の3日間開催した。さらに、2025年11月10日（月）～12月8日（月）の約1月間にわたりオンデマンドで配信した。一般研究発表演題は582題（口述：498題、ポスター：84題）、参加登録者数は2,137名であった。

第54回秋季学術大会は2026年10月23日（金）～25日（日）の3日間、Gメッセ群馬（高崎市）で開催すべく準備を進めた。

3) 専門部会プログラム、セミナーの開催

7つの専門部会が総会学術大会にジョイントして部会プログラムを開催し、教育講演や種々の企画を行った。さらに、教育委員会、専門部会、地方支部の共催でセミナーを開催した。各専門部会の開催内容を以下に示す。

画像部会は、臨床画像評価セミナー、医用画像処理プログラミングセミナー、ROCセミナーとDRセミナーを各1回開催した。

核医学部会は、核医学技術研修会を1回開催した。

放射線治療部会は、放射線治療セミナーを2回開催した。

撮影部会は、デジタルマンモグラフィを基礎から学ぶセミナー、CT応用セミナー、実地で学ぶMRI安全管理セミナー、単純X線撮影標準化セミナーを各1回開催した。

計測部会は、診断X線領域の線量測定基礎webセミナー（Angio編）、診断X線領域の線量測定基礎webセミナー（一般撮影編）、サーベイメータ活用セミナーを各1回開催した。

放射線防護部会は、放射線影響と防護量の考え方を学ぶWebセミナー、放射線防護 温故知新Webセミナーを各2回開催した。

医療情報部会は、PACS Specialist セミナーとPACS ベーシックセミナーを各1回開催した。

4) 地方支部における学術大会、セミナー等の開催

各地方支部において地域に根ざした支部独自の学術大会ならびに支部事業を開催した。

- ① 北海道支部： 北海道支部第81回春季大会とセミナーなど3回
- ② 東北支部： 東北支部第63回学術大会、学術講演会やセミナーなどのべ6回
- ③ 関東支部： 第72回関東支部研究発表大会、学術講演会や研究会を24回
- ④ 東京支部： 第79回東京支部春期学術大会他、技術フォーラムやセミナーなど21回
- ⑤ 中部支部： 第59回中部支部学術大会、学術や技術セミナーなど29回
- ⑥ 近畿支部： 第69回近畿支部学術大会、勉強会やセミナーなど14回
- ⑦ 中国・四国支部： 第66回中国・四国支部学術大会、夏季学術大会やセミナーなど9回
- ⑧ 九州支部： 第74回九州支部学術大会、コミュニティやセミナーなど10回

5) 公開シンポジウム・公開講座の開催

一般市民を対象とした2025年度市民公開講座は「みんなで学ぼう！放射線～放射線を操る診療放射線技師～」をテーマに開催し29名が参加した。2025年度JSRT-JART 合同市民公開講座「健康寿命を延ばす」を名古屋市立大学病院 中央診療棟3階大ホール（名古屋市）にて開催し、参加者は229名であった。

6) フォーラムの開催

広報、啓発を目的として第81回総会学術大会時に、標準・規格委員会は標準化フォーラム、放射線防護委員会は放射線防護フォーラム、関係法令委員会は関係法令フォーラム、医療安全委員会は医療安全フォーラムを開催した。また、第53回秋季学術大会では、放射線防護フォーラム、関係法令フォーラム、医療安全フォーラム、標準化フォーラムを開催した。

2. 刊行広報事業；公2

1) 学会誌の発行

学会誌第81巻1号～第81巻12号の12冊（論文特集号1冊含む）を毎月20日に発行した。2025年1月～12月で掲載論文数が71編（昨年65編）であった。

2) 英語論文誌の発行

公益社団法人日本医学物理学会との共同発刊で、第18巻第1号（3月）、第2号（6月）、第3号（9月）、第4号（12月）を発刊した。冊子体は正会員の希望者のみの配布とした。

3) 出版活動

撮影部会より叢書（42）「実践 Interventional Radiologic Technology (Clinical Interventional Radiologic Technology)」を2026年2月に1,000部発刊した。撮影部会のが起案した「MRI検査の撮像技術マニュアル (Practical MRI Techniques) (仮)」を2,000部発刊することが理事会で承認された。放射線技術スキルUPシリーズとして、2025年8月に「診断X線領域における吸収線量の標準測定法（改訂第2版）」を刊行した。

会員の利便性向上のため、スマートフォン上のRacNeアプリを経由して、ログイン状態を維持したまま書籍ウェブショップへアクセスできる連携機能が理事会承認され、2026年1月から使用可能となった。

4) 専門部会雑誌の発行

各専門部会において専門部会雑誌を発行した。

- ① 画像部会： Vol.48 No.1, No.2
- ② 核医学部会： Vol.46 No.1, No.2
- ③ 治療部会： Vol.39 No.1, No.2

- ④ 撮影部会： Vol. 33 No. 1, No. 2
- ⑤ 計測部会： Vol. 32 No. 1, No. 2
- ⑥ 放射線防護部会 Vol. 60, vol. 61
- ⑦ 医療情報部会： Vol. 23 No. 1, No. 2

5) 地方支部雑誌の発行

各地方支部において地方支部雑誌を発行した。

- ① 北海道支部： Vol. 98
- ② 東北支部： 第 35 号
- ③ 関東支部： 第 28 号
- ④ 東京支部： Vol. 140
- ⑤ 中部支部： Vol. 27
- ⑥ 近畿支部： Vol. 31 No. 1, No. 2, No. 3
- ⑦ 九州支部： Vol. 24

6) 広報活動

会告、お知らせ、イベント、他団体からの案内をホームページ（和文）等に掲載し、広報活動を展開した。一方、医療に関する放射線被ばくや放射線の基礎知識に関する市民からの問い合わせに対して迅速に対応した。

3. 研究調査事業；公3

学術研究班 2024～2025 年度：6 班，2025～2026 年度：3 班 合計 9 班を編成して学術活動を行った。

第 81 回総会学術大会では、専門部会講座の「入門編」9 講座，「専門編」6 講座ならびに、教育講座を 2 講座開催した。また、第 53 回秋季学術大会では、専門部会講座の「入門編」10 講座，「専門編」5 講座ならびに、教育関連のシンポジウムおよび講座を開催した。さらに、e-learning コンテンツを作成して学会の動画チャンネルに掲載した。

4. 研究奨励事業；公4

2024 年度表彰は、表彰規程に基づき、三賞、学術業績賞、研究奨励賞、国際貢献賞の選考・推薦を行った。また、各地方支部において表彰を行った。

- ① 北海道支部： 学術賞：1 名，学術奨励賞：1 名，Young Investigator Award：5 名，優秀研究賞：7 名，日本放射線技術学会雑誌投稿に関する表彰：3 名
- ② 東北支部： 特別貢献賞：1 名，功労賞：1 名，学術奨励賞：1 名，若手奨励賞：7 名
- ③ 関東支部： 功労賞：3 名，技術奨励賞：1 名，新人賞：6 名，養成校学部卒業生優秀賞：8 校
- ④ 東京支部： 学術奨励賞：1 名，新人研究奨励賞：9 名，Research Award：1 名
- ⑤ 中部支部： 功労賞：2 名，奨励賞：10 名
- ⑥ 近畿支部： 大会長賞：1 名，功労賞：1 名，新人奨励賞：7 名，論文奨励賞（RPT）：6 名，論文奨励賞（日放技学誌）：3 名
- ⑦ 中国・四国支部：功労賞：2 名，奨励賞：6 名，学生優秀賞：25 演題，支部論文表彰：19 名
- ⑧ 九州支部： 研究奨励賞：6 名，論文文化奨励賞 5 名，優秀投稿賞：1 名，Research Award 1 名，学生優秀賞 5 名

5. 連携交流事業；公5

1) 国内

- (1) JRC 理事会に役員を 6 名派遣し、学術大会開催企画に積極的に参画した。
- (2) 一般社団法人日本放射線看護学会の連携会員として 5 名を登録し、第 14 回日本放射線看護学会学術集会共同企画（2025/9/20：福島市）に 5 名を派遣した。両学会の共同研究を継続中である。
- (3) 標準・規格委員会活動として、JIRA，日本 IHE 協会，DICOM 委員会と協力し JIS 原案作成分科会班活動とともに JIS の制定・改正作業に参画した。
- (4) 関連学協会への委員の派遣や共催・後援を積極的に行い情報交換や人的交流の促進に努めた。

- (5) 日本画像医療システム工業会（JIRA）と年1回の幹部会議と年4回の実務者会議を開催した。
- (6) 放射線診療4団体連絡協議会（JRS, JCR, JART, JSRT）として2回の会合に参加した。
- (7) 公益社団法人 日本医学物理学会と2回の懇談会を開催した。
- (8) 公益社団法人 日本診療放射線技師会と2回の懇談会を開催した。

2) 海外

ISMRM (5名), RSNA (3名) へ派遣した。本会および交流のある学会のうち, KSRS (韓国) 春季学術大会 (2025年5月10日: 京畿道光明市) には, 石田代表理事と国際戦略委員の今江委員長を派遣した。CSIT (中国) 第33回大会 (2025年10月16日~19日, 上海) には, 発表者1名と, 国際戦略委員の今江委員長, 高島副委員長を派遣した。石田代表理事のビデオレターを送付した。TMPS (タイ) 第17回大会 (2026年1月30日~31日: タイ: ナコーンパノム県) には松原理事と国際戦略委員の仲本委員を派遣した。今後も人的交流を活発に行い, 学術協定の更新を含めて交流を推進したいと考えている。